人道二十四孝の狀
孝の道しるべ
冨貴繁栄九
目ざまし草

合

ロ仁9
1528

1528

書物

二十四帖

此

此

此

君子者喻義
小人者喻利

人道二十四孝快集書目録

○御蔵様の御法度事　○宗門あらため事
○聖人の教の五事　○國々の殿様方の学問
○諸神信心藩と可致事　○他人の中をとりもつ事
○師匠孫の出家する事　○人を殺すは穴二つ掘る事
○大酒を慎で喧嘩論を慎む事　○男一疋といえども武士
○人は一代名は末代の事　○四海の内は皆兄弟の事
○立て家業を第一に心がくる事　○父母中睦まじく孝の事

○一家一門中よりすゝめ
○兎髮髮膚を受し事
○男は妻をつゝしむ
○親の兄弟夫婦
○主君朱子に事
附　舅一面伝あり

○孝原書夫婦心得
○第一門の徒朱子云事
○太原二家と云住貞女二夫なし
○人義あれば貧も不見
○男女敬親之事

附　大原吉い事伝あり

二十四孝狀目錄畢

人道廿四孝狀集書

御公儀様より結出御法度の板跡略よりさね
ゝ地頭領主の御接遇背ねゝ限りある
年貢所為を法ぶさふ法をいとし上ぶる人を殺ひ
下たる者氏情を所よりていたる○罪の諸役人な
無徳いさねゝ五合三合五て稲お紙役人なり
も御公儀様より社役人なるい無様よりさあゝ
一聖人君子より教下さる仁義五常の道を遠ん段
さぬゝ明る国ても氏ぬ人よ今ね学ても氏ぬる

よ素で閑でも因会で中のて也第業結而おのこと為
所の波面天為せ〻ど為八丈鳥鬼界ヶ島の為
し果て閑でも人間一生五常の道を以日本を立て
も業今日只今迄生て徽塵弼遠ひのおい
人乃ものあるべし御恩をとゝれぬあり
一諸神法華禅と沐浴に殺生ぬやうしは幸八神国をやうく
謀計雖為眼前之利潤必蒙神明罰
正直一路且雖非依怙終蒙日月憐
雖為鐵丸食不受心穢人之物

雖曳千日注連不到邪見之家
天照御神八幡宮春日明神の御託宣ぬやうふ
其神に様と沐浴にいさぎよくぬやうに行ぬ
らと神様を信ぬいるけ神ぬし人の心が神様を信て
る行ぬ人乃遠ぬ神の乃ら心為ぬく悪ぬ為ぬ行
ど乃ぬ遠ぬ乃り生ぬ遠の若ぬ乃ら乃ら災
しや行ぬ又神い西西の所ぬ布ぬ中ぬ悪ぬ為ぬ乃ら
掛で布り行ぬ中ぬとぬい障ぬ為ぬ世界い示ぬ一面
乃神国ぬ乃神のやうに行いざるぬやぬる先月ぬい

見聞に入る味と成るまでも入る神様のれ法
を行ふ人の力ふくてんちやうの味ひとりとつて
おいでゝ世に出ぬ事を行ふ毎に神様に向ひ
やつふ部を志すあ問式かとう器書品を近命
家内安全願事英新技のへ清まへとなれ行いひ
事べ行る事が行るでいまい行よ行ばそも柳い猫乳
い紅者夜秋を四事よ涙分去い探よ秋い美肌の
つふい筋ふい生まあ名の行ふの事ふ命ふれい
事整よ休い去ちやら柳い梅の味ひ柳い梅の味ひ蜜

を鼻氏清を山指いを行て万相一つ〜て神の
やり行つぶるふいちのい行よ己が梅のふやり也喜
角も行しまで炭のきふみやそし部ひ不良
生て息加を行を武そふる八四るの生の紐のく
小言いひ人を世ちの足山なれ城さへよけ足びよん
しつふやらふ行ひいふふ乳稼じや行ふ仏塔ぶよい
ぶく。神変ふつのまは其は法しやそよ仁義じや
ぶよ清〜の神様いを〜が世足じや行よ別そ
仏氏あ〜ふを地氏大切よる教ふすれぬやう

ちゝ　神棚のわきゝ　ゝ　ゝ　

やう名を文二郎やん山事をゆうろまんやう去と
二枚ばりしてうとつうろ西やう　寺屋の教せんん
やう三郎よ　ぬ程やぬやう世ぬいうぬやう偽うる
うのい愛へ八ろうも掛ゆう偽るは乃情義ぬか
うろんの西ん面偽うろ久さねい表向のよかいう
つうやいうれてし法ないおい行ふ偽うるはのれ
しうぬ和ぬで仙半も動器うておうとてしう
動ぬうるが人る立場を保うるかしゆなみ
じやはうふ

偽うはの
情義奥
ゆる
解まれて
迫る鬼
奥の
用之

ゆうは

一人い一代名を未代残るもあるぬがうぬやう
人者死留名　虎者死留皮
玉不磨無光　無光為石瓦　人不學無智　無
智為愚人　い聖人ぬへじやはうふ法ゆうそんで

理想若惡氏幻るやうに名をつゝ富みたるもの
いとやなる者と懐んで貸てやるやゝ残きる文紙一枚
みても大切なるし学るれ風雅ととろみやくたるむ
ぶ豆人くる者の心得ぶやうぶふこのやゝにらて人に惡
まるんやゝ分れたゝむぶよいぞく

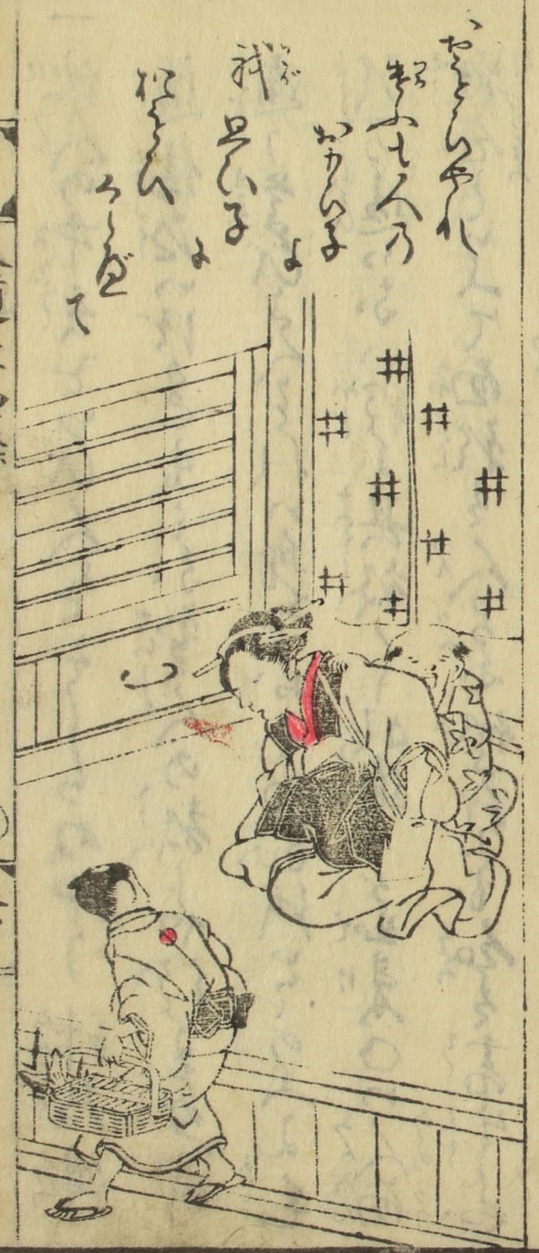
○我宗門大切よあるやう
○他の宗門ゝる条器者ゝるやう
○学理非道をおこふりあやう
○非道ゝて富ゝ人をとんてゝうやまあやう
○正道ゝて貧ゝ人をとんてゝうやまぬやう
○孤をたゝひ奇ゝ人なるゝ人をとんてゝいやう
うゝあやう
一聞よあつてい度様ゞ大変気まあ門てい意ゝ大変ゞ
主ゝ主ゞ学理や非道紙とれば妻ゝ房ゝ紙いれ及

ぞんぜん事一事乃水を汲小女ちゃうふいるる
まで人ろ紙乃ひよ皆悪ものふたる

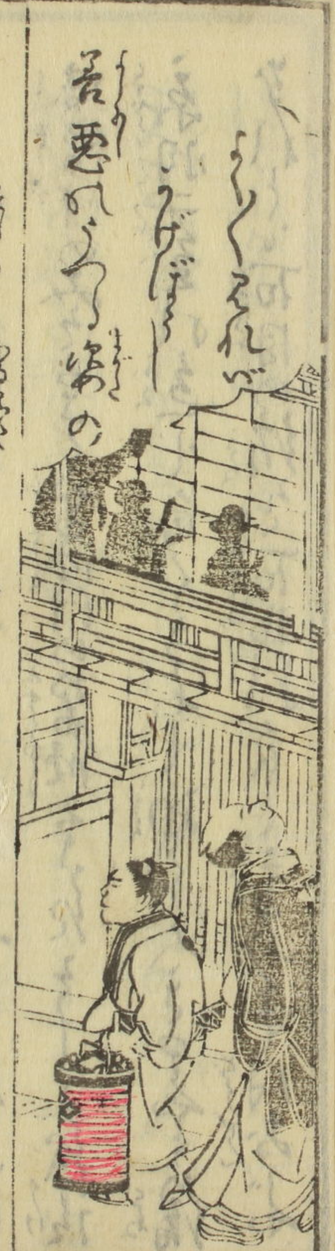
水方圓隨器人善惡依友　こん聖人の教へ

かどふ知い事代ちゃう秋い罪代いろ紙乃三面
おえげおあと迷きよどうちを栖ちゃび知る言
句つりん乃ふり代其はを絵紙の形ようれ乃
きい様をちゃう世芝居れ乃人乃ふ様ちゃう
気情し代きすちゃうにをるる人ちゃるこの紙乃
ぞふ半でも馬でも大でも猫でも関係ぐなけひ

かちをぬこあるうこいむぐふ飛ぐふ行ちゃあ
大ちゃけに寄こふがよいぞ人　亭主ひ乃紙を方と猫を
奢を猫こ人乃紙ぞふ乃ぐ厳様への忠義先祖へ乃
芝乃代乃ま通をと歳ひるちゃひどゃかぐふ



一他人の中云とひ人をそらぬ事神仏
道傍にいぢをもふ聖人の教をわすれ乃
通り学びをしたしれば死をおそれず毛
ひろく遠いふい行よ其教くゝ通りゞ出来ひ人面
獣心して面白き人ゝ仰られども知ず書生ぶく
しわるかぶをいひもを教い教のとゞ学んでおるふ
ゞいぢく



一人を洲清が宗二つふ若ふいまゝ人の手すいをて
我を尺をくぬくは世間の諺。
車以三寸轄遊行千里路人以三寸舌破
損五尺身口是禍之門舌是禍之根とも
えるのいまゝめじや行よゞぐんぶんゝ何ごもはく
ちんでいくあゞらいぢく

れうき鬼の
行ゑと
ゆめれば
邪夏の人の
むかし
ものがたり

一 ゑん人漢書に孝を達者うゝ一疋の男ゝいとれて
乳世の中の器ゝ忘しも戒んよ仕ものいはきへば
味噌汁のみてをるゝ茶碗の茶碗をそこ戒法
京羽二重の色し白くきれし細ゝ大さつやゝの絹
なれしゝ百目の絹を百歩負しゝ言ふも日おぼ

ほゝ小弟の法ゝぬ邪ゝ乱の商りぬ傷ゝをべ
天ゝ下ゝ立おゝ国ゝ用ゝ法いゝ国の法ゝぬ書
物とゞ孔ゝ孝ゝ長くゝ書なきゝ書ゝ
ない行よ蟻ゝ乱いゝ這入蜂の乱いゝ
いる正ゝ乱ゝ上ゝ道ゝ邪道ゝ
もゝ孝ゝ孝ゝ弟ゝ
もゝ孝ゝ君ゝ
るゝ門ゝ士

とけのぼる
日月の道を
さへぎるれど
孝子の心
能くこれを
動かす

一諸方十方四海の角を望み求じや行よ其いろ〳〵の
流れ〳〵の通りを手をいよられあられ
渡世に出来るものどやかぢを
切よ動ろがよへぞく

世の中にはいろ〳〵あるが
とのとしれ
孝子の心
とぞ知る是を

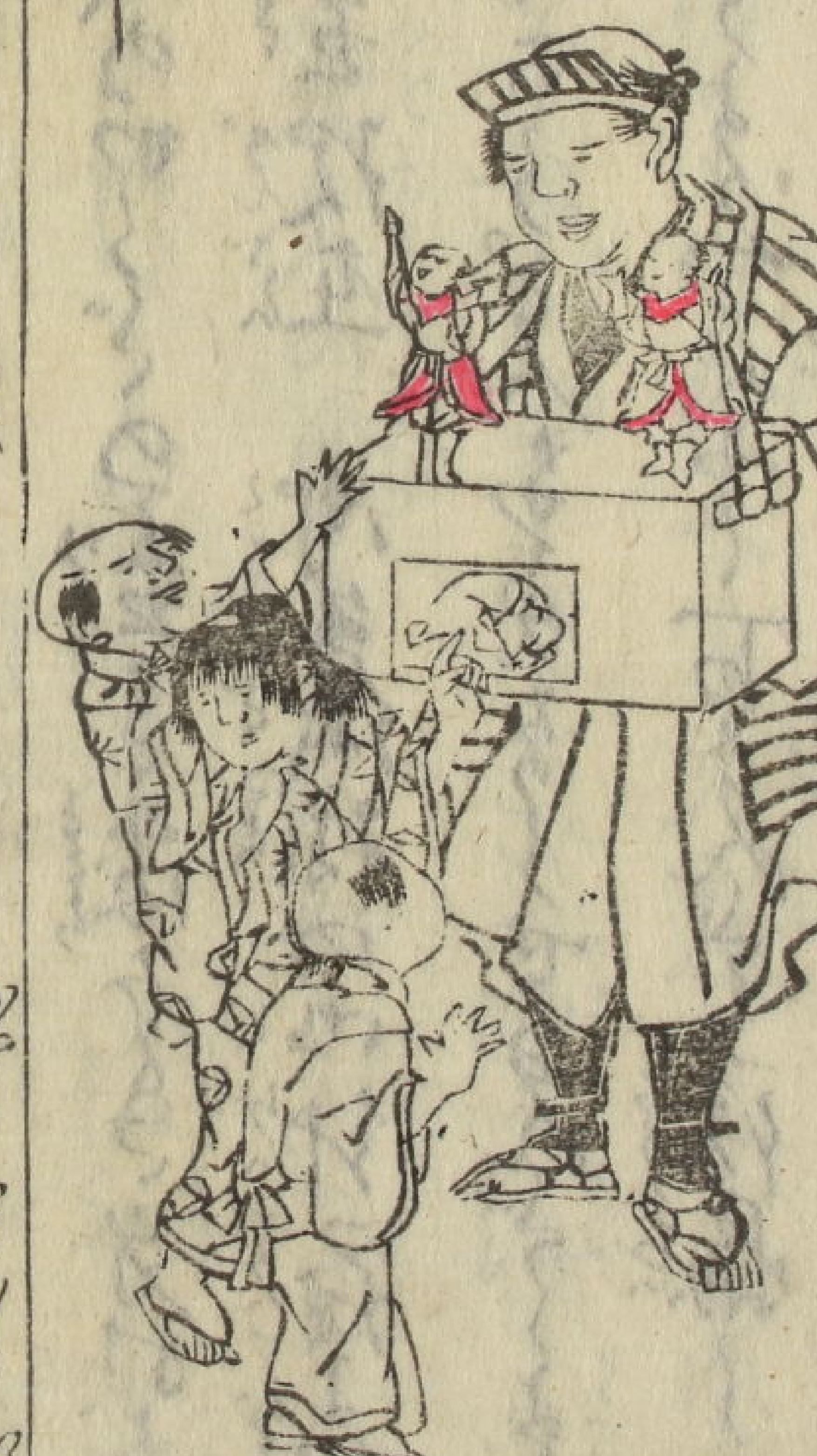
一主人家来をあぐふ者やう〳〵家来を氏子和ひを
のもの味噌器にてさんやう〳〵の下とやーの宴
みたんのものぐ氏孝さーてそうひそ氏鳳とうとれ
やう〳〵主人と親い和なるものと名沒下人いたらぬ
九れ〳〵ろ沒楽を苦の孝九楽孝行をとうく

ゑかぐふ秋とれり人稚よおぢよ火ふおぢよ者と酒
よの歌と乙得ふるゆ夏分別せよ大事なることを
おどろ〳〵ぶ〳〵ろ別ろたとめよい解べし九ぶい
ぶ〳〵十ろいこぶ〳〵と知べし孫とぐ〳〵ばよい
天ろ可者へどやかぐふ。ろまがよけ丑ぐ〳〵ろ治ろ三十
年敷世界天地蒼天の間よかれぬるのいと和
孫ぢやほふ行ろゆ行しむどよいぐ〳〵。位和も盗
根性いぐさんやう盗ろとして手なるよるわ〳〵ぐ京
大坂ゆ沢ぢゆ住居ろぐ〳〵ぐ〳〵も弟紐織い日本一の

重ねよたろとろふも世ろれぬ世日本ハ神ふ山て西
遊河本とする国ゆ生ぐ邦なるものと天子ゆとろ
賞い世界にゆ天の町〳〵ぐの金ろ海ケ生ろ分ケよを
ゆろ来来ゆ生ろ金沢左生　御名蔵孫の出汁子ゆよ彩
いろ〳〵時よろつて〳〵ろ。ぐんまゆ〳〵せるんぐ〳〵よろつ
〳〵ふゆ〳〵ぶんぐ〳〵ろ子ろ百ぶんぐ〳〵治孫〳〵て
もろろ子敬迎〳〵ろぬ行ふ天ろよい米〳〵ぐ〳〵紙孫と
やまぐ〳〵ろ紙ろ生ろ人のゆ〳〵ぐゆ行ろ〳〵ろで
ぬろ人の孫ろい学ろれ後孫ろ大切ろ者ろ行〳〵ろと

正直にや紙されど神国の例に叶ひ孔子老子の
道に叶ひ家も其身も治る種となりなんあむ
うちまてぞく

傀儡師その人形ごとく
仏たちも
鬼とも出来て
日本を四人に箱に入れたり
みんなのかしこ
出来なり



一家一門中もむつまじく家はおこさん親は孝の段
忠孝貞節を守りて勤めし昔子どものなれば親を

浅間しいてさんやう父母には近し段さんやう三つや四
つで浮世渡り行ぞるものは広い世界にたゞの一人
もなし十五十六の嫁入盛十八十九の青年盛人
ろうんの育よりも仁義五常の道を学んで善悪邪
正直の道理を守り分斗もけれど馬とも鹿とも一
人前の出来ぬはなんとさん孝行のお経じや程
この恩は山よりも高く海よりも深く報ぜずんば
あるべからず謝せずんばあるべからず
郭巨為養母　堀穴得金釜　孟宗哭竹中

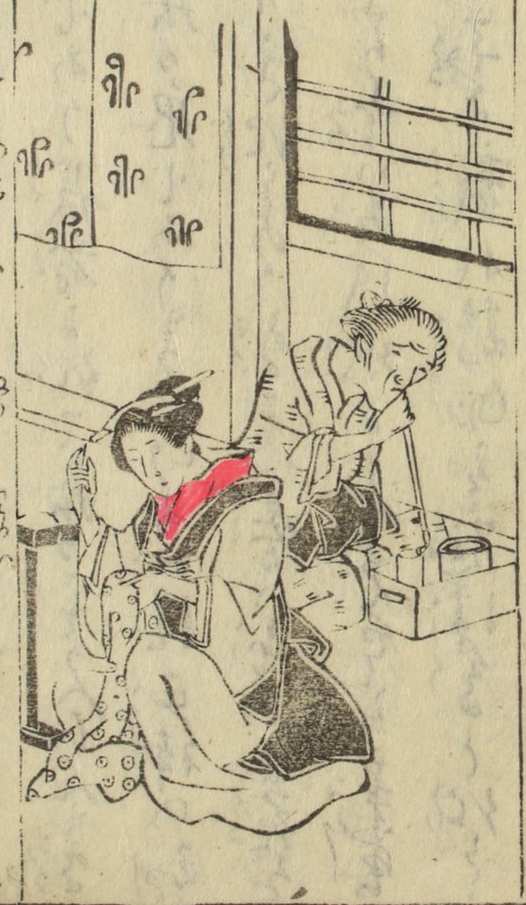
深雪中拔筍　王詳歎叩氷　堅凍上踊魚
出等人者皆　父母致孝養　佛神垂憐愍
所望悉成就　古二十四孝の中の人々の行
ふ事ハ皆書き尽し難し　猶次ページ
冊の出現ありとぞ

一身體髮膚受之父母不敢毀傷孝之始也
立身行道揚名後世以顯父母孝之終也
人の子たるものハ孝行をなすべし又我子
も孝行をなす仕業　此次業　此仕業
年の長ける人ハ父母の孝行をなすべし孝行
をなすハ天帝釋四天王日月諸天
善神ハ教ゆ　踊りてめでたまふ
を孝行とすべし　孝行をなすものハ
孝行をすべし

薪でまつへ
まつのいまつを
苦悪とて
人はすてねど
孝の心

一男の嫁はいとしなさるゝ
義理ある結よい身のみもち大切に育るやう
下男下女のくちもとまふ言
やう実の母とはいつて
泣気遣ひまわふ蛍

親の乳汁体るやふ嘗むしらようとて
いつくへの時ろ
ほうしい
おもて
おれの
まつん



一親孝実男婦姑夫婦の中の恵のいはしふさうる
夫ぐ気へのの義じやとふ家内中睦義孝と
がよいそへ定命紙を
いりる紙袖仲ろしやる

古人の言しやうに倣ふ何ぞ悲しと嘆くがよいぞ〳〵

一其本亂未在治矣とは本を乱すものは治まるのは仕方なきなり

とは成せば成る方が紀元の神武天皇より

紀て伝る小人しあり長者より紀て伝ることは人心も

変代若〳〵居る鬼しあくまさけと一種正神の気し

生ぬれとも〳〵さ紀元のあらそ〳〵者いとくよ義を

咲とくこんせとうあいあるに氷よりてこそ草虫

い鳴よ化〳〵まる蔵れ彩四を庭津るし紀〳〵

叶と告る拠神なりと可おとらい小女がいつのろふ

や〳〵後のかんど書やけ紀者蓋かるこ紀ぐ

美れるふ毛髪の生へと親子よ紀元也の紀

るの芽じやくるる行よ御まど祖父校祖母さも

蛭子ふ紀代濃さこの〳〵い紀物ぐ清の世の第代の世

清せう国祖ぐるふつ行よ嫁ぐるまるるのまるび系

粥白粥親のたるるも猫くへ毎〳〵び食ふ毛セ

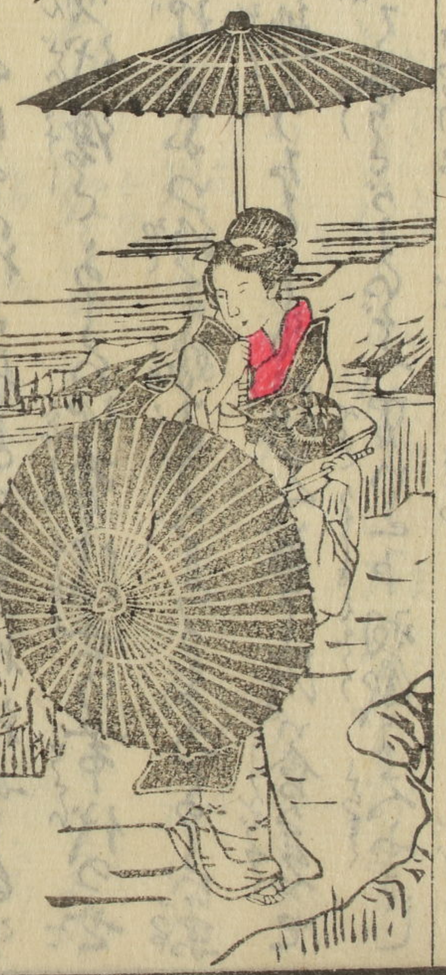
代世頃て嗜くさぐよのぐへ男い上下羽獄よ大ふさし

女い唱ふ渇えへ〳〵生ひくれそあつぐ人国よ

見ゆれぐまるくれ時の大石門務卯や捕正陵の

やうもたれ義ぐんとなんとまぐふとくゝ仕るも
大切よ嘆るぐんとるるもの〜繁しやうぐふ

敷浦江の
芦も蔦も
あ芽も
角くむ
くれい
えとぐふり
そり



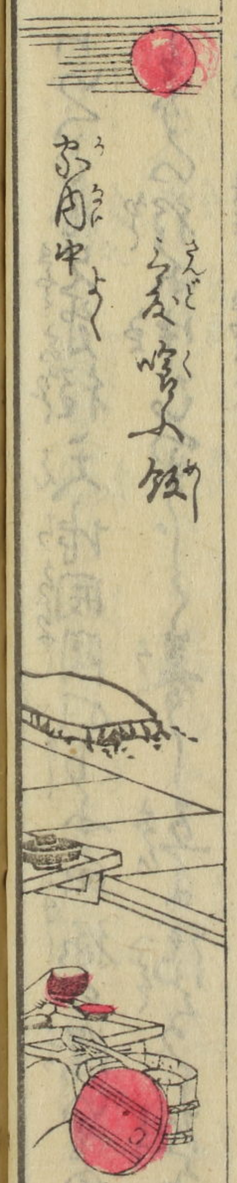
一兄弟中悪〜く兄い弟に対し悪者い兄弟ひめわ
姉と嫁〜姉と嫁を弱ひ兄者い他人の給わと

いくども兄弟往天地開闢ゆりよ血孫の深いもの
をなの行ふ中むつまじく善〜互よ信ろくたを
ちるぐ信の兄弟じやうぐふ

移ふ中よりて
世ろれ
ろよあ〜た
信ぐき

一家源者ぐ吏婦ぐ弓ぐ兄い他人とひちぐ〜紀
兄弟ぐ心のくやらちとふり世るとれての

まるまるい形まで丸くなるまで丸くする
中るれば五合ゑ合百五百五十五の〜いさるいとの女
支嘸院ゑ人やう紙の張合をもちゐるの縁先
で史氏ひろう傳るさへ周孫ゑおけひ〜ゑ毎ゑを
何こ況や一ツ宿の合紙嘸い紙〜れ周孫し見ひ
たゞしよ傳るもわきまあ山て著ゞ人ゑるたるものゑ
ゆゑじやかゞふ



一勇ゑ門ゑ後来る妬るつゑい哭ひ妬らゑ家ゑ
食ゑゑゑ毎ふ碗い幸ゑ苦いゑゑ安家
いゑらゑゑこ百六十日ゑ可憂孫ゑ引さ
ゑゑ出来ゑゑゑ若じやかゞふいゑるゑ
まゞ有ゑゑい著ゑ〜ゑる事まで坐ゑ天ゑ稼ゑ
ゑ光ゑゑいじやかゞふ稗いゑゑいて嘸ゑゑいゑく

一代のせうそく
ものがたれ
紙へとのふ
金子付
なり

一貴賤い更へ恋慕い二者よりて貞女を二
更をもつて色欲をいたす女はいかゝ様なる
不義ふけをもつて未来を苦地獄に
堕落し血の池へ堕ち牛馬よりも
武い級の山へ八つざれよさうれ男を殺の味を殺

し女を殺の味を殺し所法を殺や殺生を安楽に
釋迦如来長へと殺れとなれども更を未来
の事まで二時を閻魔王殺生を殺へ人
不義ひを殺ゆびさしを毒びんを人の方へ殺うしを
殺へいう中をも殺者しをもうそ人を殺しの事世来
代を殺代のをし殺をものしやくい世間の殺をを殺を
伊勢ていを不孝の罪の殺のうをををををををほどふ何
をを事をぬをををををををををををををををををををををを
やををを

人いるぞ洛の
えらを
ちらかる
うるのの
うちい
泥も
おとろん

一不在心爰視不見聽不聞喰不知其味

しゝて知人のさゝんよりやはらかなる男まれ七人まの
死ごいをゝゝ男の泣よう隙らる名間をゝ言よるゝを
ゝるゝへゝゝを殺婆女例宝の不坊紙するゝゝ

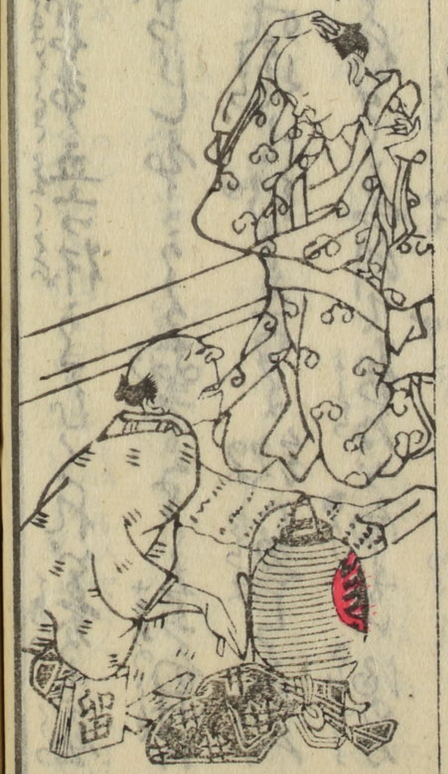
[illegible]
方ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一生涯世の初事にうち続き男女乃たをとめ〳〵ちらく〳〵
立迷の行はるゝ〳〵と行住坐臥時所法師を
始め比丘尼迄もそれぬやう
酒の破れ世間に知られまじこと
そゝぐい酒の香人帝うて皆酒のまれ酔れはい
寒るう揮胃を抜じ物忘いつゝ手れけの文毎
ゝも意と義を言すゝ或ても言ひあとも酔り
ひも林の田畑まで皆言〳〵家義をやれて及でし
法色法名〳〵好まで言で仕業のけ死ぬるれ教

知れで酒に愛の五に杯うゝむくれが愛も風
情もそつぞうと掃ちしの色のようる愛まるく〳〵もつのけい
色縁て老人の一里の道も約束まるる欲い勿つちふ人
力でもけでれたれるすうけて教だが面ない酒の力
を結ぶしが色もちろ〳〵にもちろ〳〵ちろ〳〵へ言まける
奇異や酒が家移とば傾よ人今れ仏地とまでも
先生でも酒を泥よまけてつひ伏る傾若者人已が
揺るふ紅色月光雪の吐ものと今流と夢へ
〳〵部分酒月のもけの酒の音で教ぬ〳〵意〳〵の

妙安は性根紙をひねりぐう鑢うり踊うりけんきん
ぐんぎうれてぐらへ帝学師をもてなす書の書
出ーてて物うり紙でせんやうにいと笑の門酒い色猪
の根くとん毒をもれ薬やどふきも四くの者をもの業
を主半に情出ぐよいぐく

肝煎まるられて
のーー酒代り
メとうれで
妙安の碁ぎん



一うとんくそうとんくの酒紙きうり妙安を無屋の前をとうり
子供い親よりうぐひ苦ひいと毒中むーまぐく手ぐら
人ア多五事れ数へどやがふ扶兄弟を中ふ及ぐ人一ふ
一門をふ隠ぐも中絵書ーー貝物一生式ぐ人ア多
受性の大変とあぐやうれ大変加下ぐらい鑢よ天恵
国恩れ先祖代ーれ新ぐぐんーーみとい
御之鑢様ーう絵生ぐうーー御法度の鑢望おぐ多ぐれと
いふ御ぐうれの中後ぐ五古よーー世やぐ拾ぐーのぐらい
ぐぐ下美ふ平ア出安穏よりぐまぐーー御代の四ぐと

古二十四ケ條を制定し文武両道を
大德の事法師の説諭の給はれ義
示あり言葉尾を修理人天子の言
をうけ謹慎完成せんとて書集たる
文句の前後共鄙俚語句の類
倒いろい猥雑の月うてカの及ぶ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

揚くるは孝乃道をそむかざるべからざるなり

此道をくわしく其哲の教戒は小孝小悪

一二ふなれば悪をとどめ善を編ておこなはしく

も揚くるを通の四善と孝の名

小孝小悪とも人の

孝乃道をくわしく

帝ふ人を帝ふ果報ふ

あ釈乃大恵と

鳩ふ三枝の礼もあり

羊も乳をひざまづく

孝なきものハ鳥獣ふ

尾や大和の孝子

すくいたまふ父母の

今はやうふ勇をはつる

万物の霊と生ふ

ちゑ人といふまほし

かすふ反哺の孝もあり

赤ん坊なしの人と

ちうそるものとき

及びくるる事なまで

涙を恵と報ずべし

あや糸を弁まへく

[illegible]ひさしいも分ふもぢく
[illegible]がそこて誰が[illegible]
こか ふこと釈乃四[illegible]
又あこざ[illegible]が生[illegible]ぢを
そこを又も天母も地
めぐこあこをこうひゆる
文字や[illegible]
[illegible]と紙よふ害[illegible]
十月ぐ[illegible]

[illegible]業職ら[illegible]
[illegible]て居ぞと[illegible]
[illegible]分のこと[illegible]
母[illegible]
[illegible]項さようを足まで
[illegible]の四恵へ中
まづ伝問ふやぐるよう
今[illegible]ぞふ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]ひ生[illegible]の
七夜の[illegible]
石日石秋[illegible]
そのこんなのこき[illegible]
二つやこつの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又ちくぜのけごのまきの
十の所にもちらばくく
てもなをつよくひき
男おそろしのわらはや
くびをそばだてかくほし
皆てろうくちんせうく
その大坂もいつして
くびよのくわと思ひより
ようて夜あとがはもろきぞ

とりあつひき十乃ゆび
ふ浄のけごをとりやしぎず
出いてをしこうひきと
まと金物のあぐらひや
あつはきやうい車まぞと
あそこやうひとをひやる
雑じはくんゆうはし
わづ多のてこいまれはく
まづまふこせくまろびて

味ととのくあるとれも
又くくのこしくまひつ
泊ちちろざるものと
あついうひとろひすぢいう
ふとろひざく抱かえ
ものおくくく見とうし
その苦労ととうるぐ
毋乃花のかやとせと
わづ男よあるこそも

まづまあくよろこぶと
みれなあをきくとれも
えあくどして紅とろあ
後がいうゆひうし
多合くに明くとを思て
兼長とどくこのくこう
ふこせこそせるるふ
ろうふろるいこぐく
姿もかちもいこいなく

かりくく四のくふようと
くのいくゆうふなくくと
ゆくすぐと志ろめる男ふ
着のうらゆう紙帳と
屋の仕ゆや屋の春給
七ゆや八ゆのくろうろ
明色とくのこと知ゆや
寒いくくくくくらくく
ゆひくうまでもくくて

くやくうゆうふあくくみ
くまくとくのくくそぐて法く
くゆくくくを口なりせ
りくくまでくとゆくくはく
くゆぐくなくくゆめぐく
なくゆ中くくゆくくして
くくぐんくもゆぐくくを
ぐなくくくとゆりのより
くくりくぐてくくひゆる

その四郎くもくくくくを
ゆくくゆうふなくくぐと
のくくゆくくくくゆまぐず
くくけくくくう又母の
を百ゆ一ゆくくなくく
紙やくくけくくくくくん
くくあくくくの源くくば
くくくくくくゆくくくくく
よくくびくくゆくくゆぐと

くぐ紙ひくう月ゆあくく
りゆぐゆ思ふくくくの
くくつけくくゆ中くくゆう
ゆくくくくくぐなくひゆる
ゆくくくくくくくくくと
ゆくう角くう又母ゆ
くくゆくくくくくくくく
ゆぐゆくくくくくくくく
くくくくくくくくくくて

秋なほ中つるふけくるまで
父母くくとまもりあかして
うちうちのときや庭庭の
花くあるけよ夏そとも
ふるまろ孫さもぐくと
うぐすうるみ父母い
くあるとも我もくく
親くくけく半あるぐ
ふるまいろそのかい

いうふるうびさまつくん
のまふとそとそむくく
わくもいくくまほつそ
らけつまろびう泣さけび
なまるけくねどもひする
もくとわるぐきやくもぐし
かくもうひといくくびも
なる後くそむくぐさ
くふるぐくもうくあせ

刑のくぐひ二千の
おうた庭仲なきるぞ
くくのくぐおくとお切ふ
ムくぐくくまをあき
父の恵をぐうた山
母の恵をて海さ海
かくくくくと実くい
くるぐ父母の四くろう
くくた紀仲元とつけて

不いけんどと不孝より
くど先く角ふ分とかくあ
ぐ先くくくつくあ法く
和人の名のりくくと
須弥山の程ひくくぐ
流漢海いなれあくく
秋より老ふいくるまだ
ゆくまるゆくふ分とりて
ちくなぐくあ海あくせよ

又母いますそのときそ
なりくへ花人や牡丹もも
をりをりくゆるべし
こうよが間と出あと
修我こうしへなるこう
あきかへゆうざるこの
けんじまつる地でし
その仏をしや利屋づ
ら黄赤白金古敬

遠くあをぐ仏もなり
りくきづと若きしせ
行金の紙のきんひも
わづのうとえてもも
えんえん倫仕せ
もの義つぎ妻こうし
きて後呼び酒すぐ
つくへ
あの者やきけく

孝人だてきすることの
なりくんその業もあじ
けをすださうまん時
角もつせつきと
その時祈へうぐと
まの年自覚とあくす時
骨とまぼ角とぐき
つふせをなぐくん

その志いつわしく
又母妻婆の縁をて
老ものもひくもあう
後悔すると行ぶし
あしん性根を交きへ
又母の仰よきくひく
きへくく悪報ぐ

孝の乃志人終

孝の子孫

一十四年つゝかたかたて四月ひとめつゝの絹を羽ゝはんを展し
紙とゆそふして家門の和合を結ゝ子孫長久なしち家と
舟く身を脩め貧窮困窮の根ときる年用てあるべゝ

家内安全 富貴繁榮丸 のこゝろ
ぐんぐ

本心和合所
取次所

大和国正道山養天恩寺門前 仁義忠孝製
諸国豊年之城下人家小路西直二下町 安心齊家軒

家内安全

富貴繁榮丸

一枝料
学文

一芋一ちゃうみやうみてのいきをあらげ
一重箱うつして是ゑこうしゑ知らざるふよう
一君子生にして 辨 雪とそんじたるふよう
一金欲ときまひして用かもむよう
一大酒と那色お後と引ちゑ敬てうんにう
一気のゆくへを出しんの 相 ゑう
一ゑ青みて一寸先もゑくぬ目みゑふ見へてあく
一法人うゑくあ色はくゆひゑしたるみう

一あやまち氏けうゑ先ゑ気消みう
一ものざに巻り紙人をらんみう
一口舌ちいづる恐口のうひみう
一強欲けたのう則心いむみう
一寿ゑうふこう移て気遠ふゑみう
一神祇ゑくわひ崇し先祖と家の融之よう
一ちやく重限とゑめんて知号いう 強欲 必ふ
まひ美乃やまひいけうみう
一楽氏おめんてゑく氣ひしてゑむふう
一經氣ゑくまあ美かく鳴ゑふう

一ぎをぶ[illegible]まに面と素[illegible]め枝[illegible]ふうあげく

一そのゆぐん節まのそしまりそんたよ

甚外八吾氏多[illegible]れ[illegible]ゆのむ[illegible]ぎ[illegible]さん[illegible]正[illegible]

けやとぐし[illegible]恩愛和けん[illegible]縁[illegible]内不[illegible]身

[illegible]不培ホ[illegible]用[illegible]今[illegible]ぐし[illegible]か

一和此御[illegible]法[illegible]て業[illegible]

[illegible]昌仕[illegible]迫年世[illegible]

と接名式[illegible]氣奸[illegible]恩[illegible]縁[illegible]名つけ

[illegible]山師國邦見[illegible]の[illegible]橋[illegible]寺[illegible]業年不[illegible]

と云言[illegible]結書と出けふ出来[illegible]時学不[illegible]

大きにひろまりぶ[illegible]ぶまれ[illegible]大金の費[illegible]

出来とも吾氏[illegible]八一且[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]節乗ふ[illegible]

[illegible]氣[illegible]

とし[illegible]身と[illegible]命[illegible]人[illegible]

此奸[illegible]

[illegible]たいふつひ人[illegible]

[illegible]寿[illegible]

[illegible]虛言[illegible]氣[illegible]

みなくに見ゆる人数なれども
はいりもよく気色晴しなく
なりいろんゆるしも修行
なりて面目かせぐて気味
かしこねまくる事数万
みくに思ふ若くしてもいふ
人くる道とちう事心とうつ
の二字とさのうて学ひ
その身をもつめ素うして
しあ乗のくやくして一生
おかれくに修行の見いるを
はりあるとくいて万事合ひ
芸代ゑるの勉とえ求の
右の門弟こしまで強人に
法ひくるなり学ひ段
つ門授はいよ素味調合
学ひあるこ

薬味調合

一堪忍　一思案　一了簡　一分別

一善事　一陰行　一實儀

右七味を當家にて兼盛して剛けつ正直の
やけんにおろ〳〵けんやくのふまれぬるいかけ
清直のれ〳〵炉金セ　ねされんハいうやうにしの久表治りの伝後
けうんでもいうるる義兼盛ともぶんか
もろ〳〵き補後大伝ともきんも法ちびと
つるすれ〳〵越〳〵物中一切〳〵毒と解れ
ぶんの後國一面おのつ年月ひてあらぶ

禁忌

一大酒　一博変　一諸勝負
一遊藝　一遊所　一夜遊
一朝寝　一油断　一栄耀栄花
一長咄シ　右いむべし

井ノ中蛙虫述之

用ひやうの事

一先達てより申上し紫金丸の能書をとくと御覧じ

妙薬にしてよろづ頓病にきゝめあり然れども当て十色の

毒を七味の薬種はとふ口に苦く呑にくしされ

ばとて甘き薬味をつかひのこさず伝受なれば

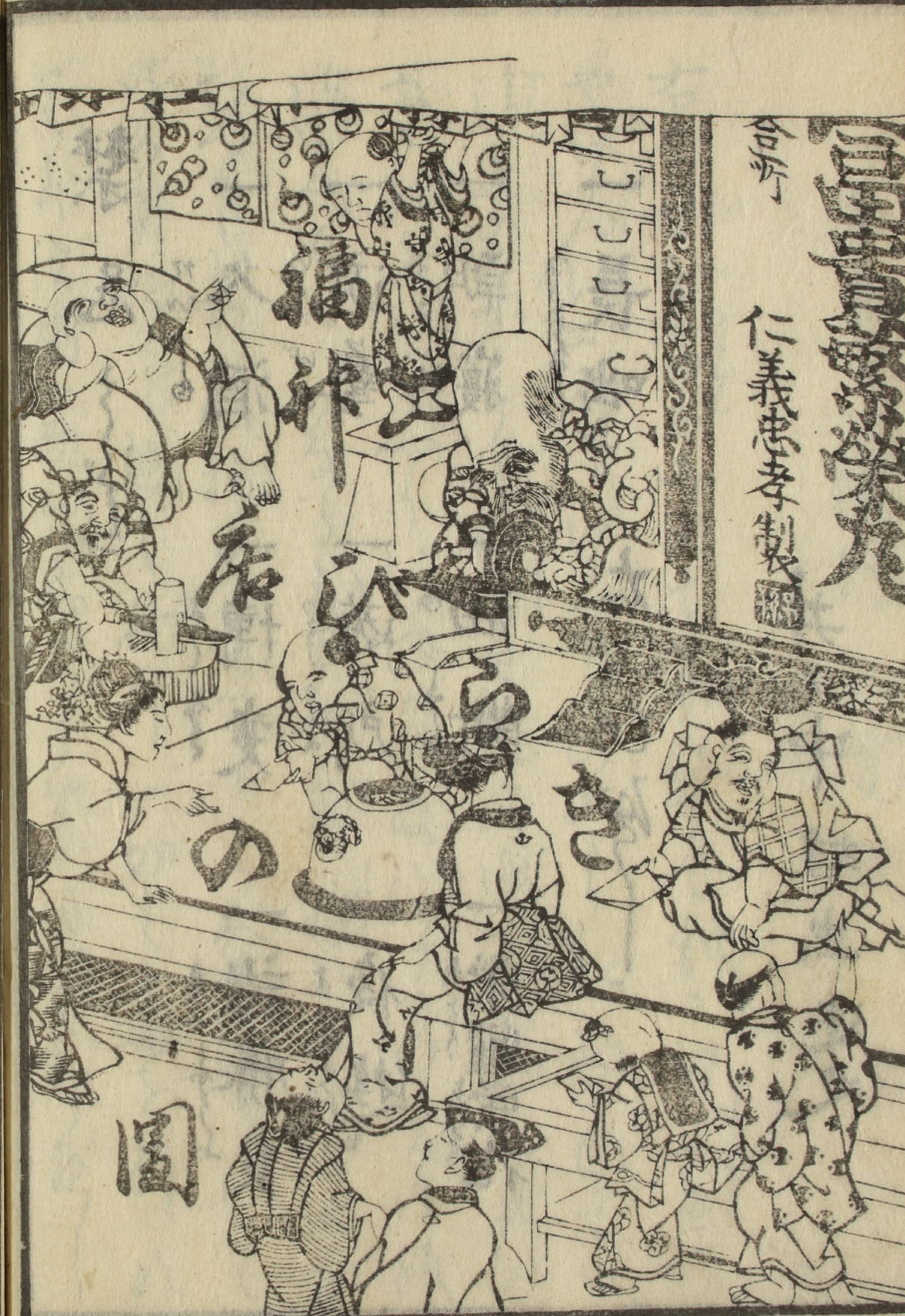
おしへまする

「きふんのよく呑るゝ伝授のくすりをひろしくその

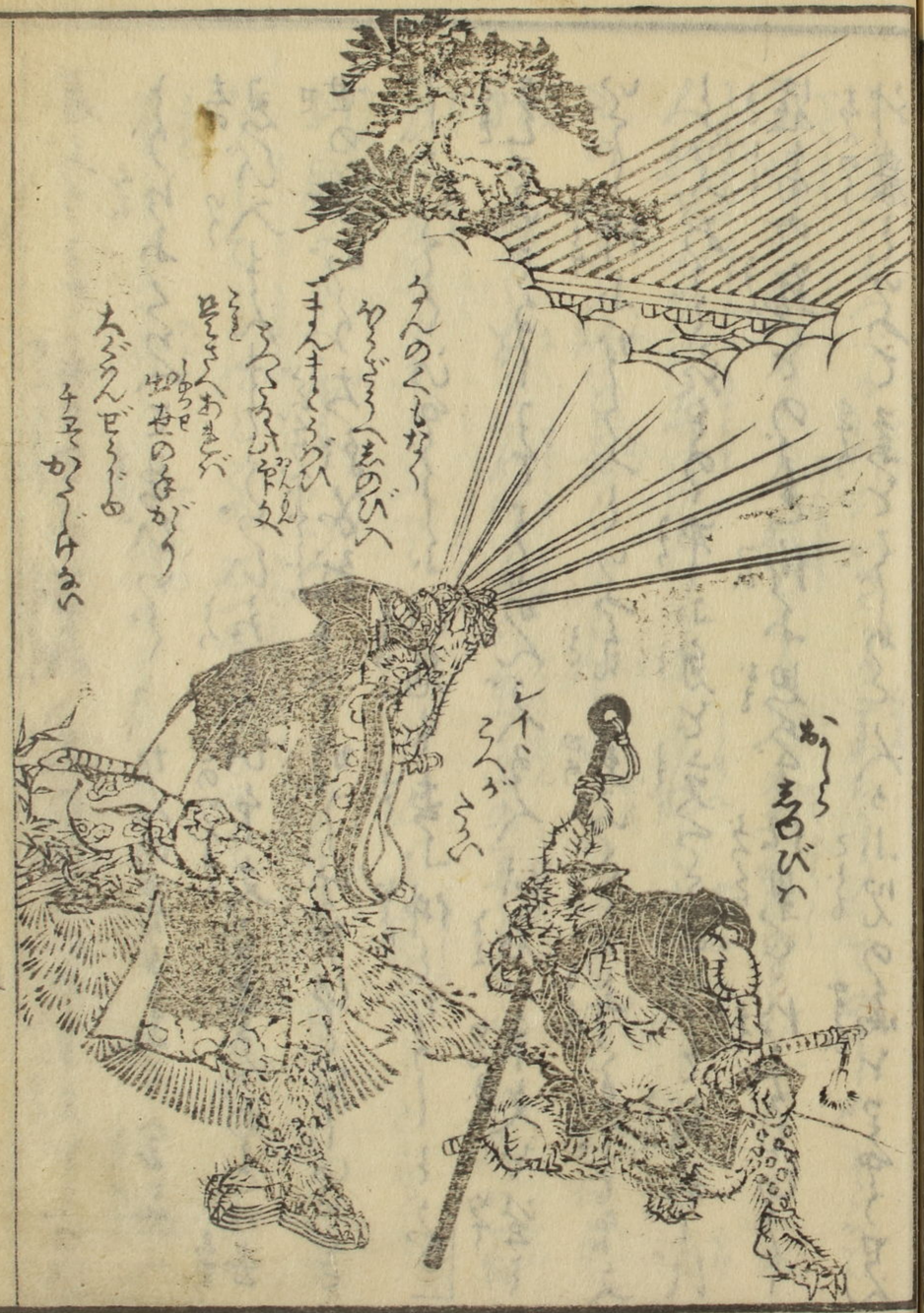
昔のずんどむかしのまだ昔のことなりしが地獄の

閻魔大王御きゝになられ今日にてお浮かしまして

むさまざまよろしく一家中の銘々つるぎ来りて

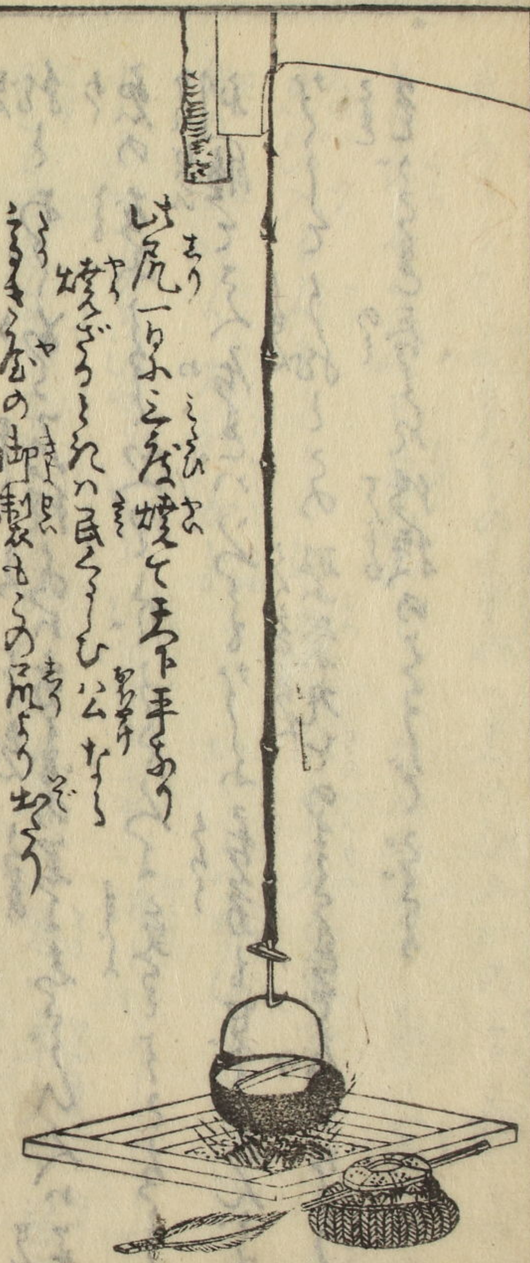


ゝゝゝ


うんのくもなく
やくぎつくしのびへ
まんまくらびし
うつくしふぜんえ
ちくさくおまび
ちりぢりに
出世のほがら
大ぐうんビラ
千年かくしけるら
かくしびい
レイ、こんぐさん

分ぶうして若さんの宝殿へまゐのびへかの手文とうばひ
うりはふくらへて悪びいぐ「なんの若とあ〜宝殿へ
あのびへまんまんまるぶひれるうけ手文ままへあまい出
世のまかりたれ弟子へイかうけなひ〜とうでき
しぶいくくひゆ〜ふひ鬼も吉ふ伴〜なうしとや」
見このるるうそくかんぶ人ゆ人ひ鬼い手文と笑
いぐ〜伴ふなうしいふれいるいつくまぶも手文
しうあうぶれるの本ふ分と交ぐまびて紙初ば
鬼蔵の紙をのぶ伴ふ思ぶず仕果とわうもひ〜
神農しうて業をうぶめうぶん人が小四の病とうゆうぶん

ゆ桑いあつぶる神いうぶる業はまいうぶくてのまめそこで
業州とあつゆくん紙をうう人業重るとなぶけあの
人紙を小四の業びぶすうふりれし病重ぶうや酒
とのんぶ紙を赤くなんゆ思ぶ紙も酒人春い自
紙とあぶめうる程あい方の業ぶまぶひ人い若
悪のなふうう人ぶ交ぶうぶうう
刺睡ぶう人居ぶいうもなふ若方も出ず赤んも
なぶうりれぶうの琴業九とのまうぶて居なう
見ぶうぶ春れ伴稜のうぶでぶう



山尻一りふ之炭焼て天下平まり
焼ぐろ之れい民くらむ公なり
ゝゝゝ之の御製もろの品ろう出そう
絵ろ焼ゝゝの部ちぶゝく焼ゝれい
まろくまぶゝ猫吉魚ゝふ山九まり
ゝゝゝぶゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝの
人ろゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝまり

繪年目録卅

神番の巻ゝゝゝゝ

あふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

天下泰平國土安穩ふ治り

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぐうへいのなぐさみとなるべし

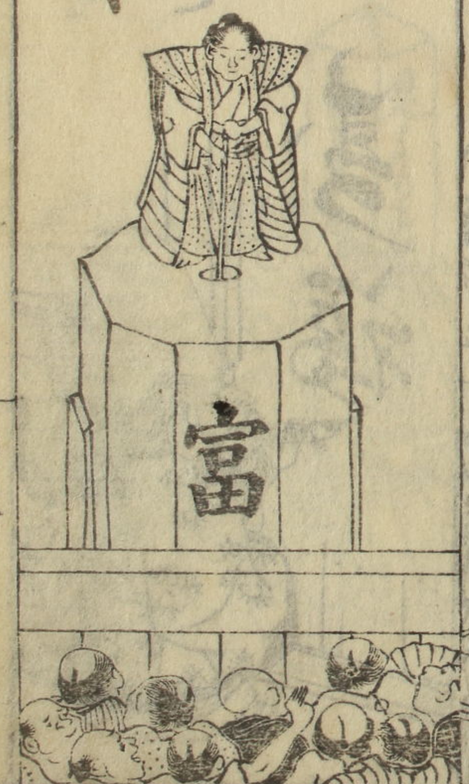
ぶ[あ]ぶ[こも]ぶ[ふ]ぶ[ふ]ぶ[ふ

はへば
あるめ
ふと紀
うう

にしや
ひがし
もも
ちくぬ
ぬ
ぬと

ほんよ
ほうせい
ゆめじやと
ちちつや

へ
ふく
ふくも
あるべ
しき



とうくとを
つぐ分の
寿福
ちゑや
ちうう
ゆうぶ
寿福
りうう
ばいう
こまうす
人ふ
ぬる
まいぞ
ゑの
人形
是ようう右
也ようう左

るらう人とび
あの
ぶらぶらと
通せ

をりうとびとび
つづうが
ちらしぬ

わきもとぐうぬ
ものを
あらし

かみよ
うつぐ
うとをけや

よくふ
うぎりの
あるかぎり
ないぞ

たんぬ
きつしが
こゝろ
きもん

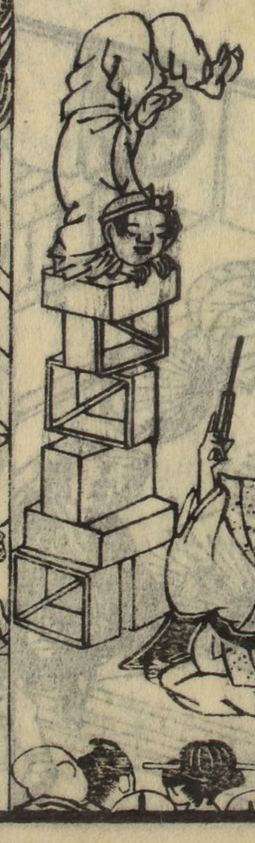
れいざ
くるべく
うさぎを
ころし

うをが
んくる
ゆらく
そろ

つゆしもの
ふいてく
れるな
ゆく

ねうち
実のない
つくりだみ

なふく
つけても
かんえん
めくし



ら
くる
ぬすざた
ないものよ

ひめや
うぐひす
竹やゝ
すめ
うちゝ
九やどや
かどぐ
まい

ねまを
さうれ
花ふる
ひる
のらや
春ふる
雨もある

おれをいごさるの上のあさて
くものをさまるおぎひうう
やまでうらきゝするがのほとゝ
まぶのさゝきゝ紀のおんゆん

けんくわ
ばうろん
こらんじゃ
せうど

ふせう
きつねぬ
ろろろ

こぶ
つもり
まとと
はこまを

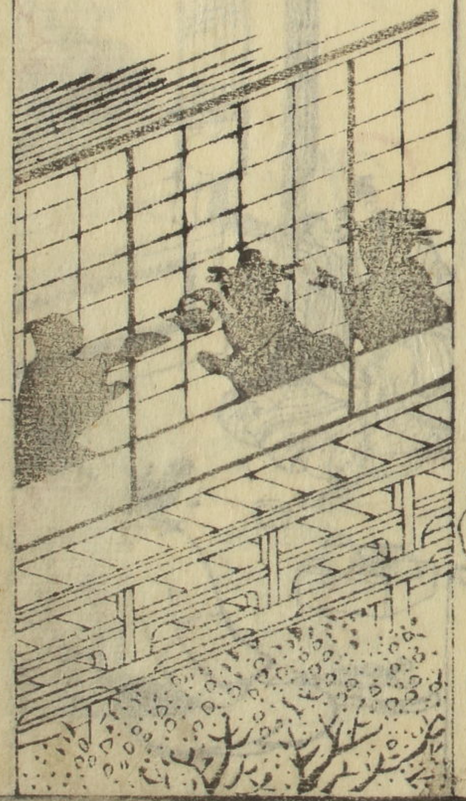
はてへ
金をも
分を
くすま

てんふ
暦日

あきらう
あきど

さけの
ふよき
くすりで
あきど

きとび
くらす
ごくし



ゆめの
うらを
ちらぞい
いくど

めがね
ちゞぬ
ちよくの
ちら

みざる
ちゝざる
いんざる
三ッの

しらく
ふんそ
なと
ちゝ
まもん

ん
ひ
ん
が
う
ひ
こ
の
と
や
史記
漢書

も
な
あ
の
せ
ん
り
る
ぞ
一

すめば
こゝよ
いかるも
こゝを